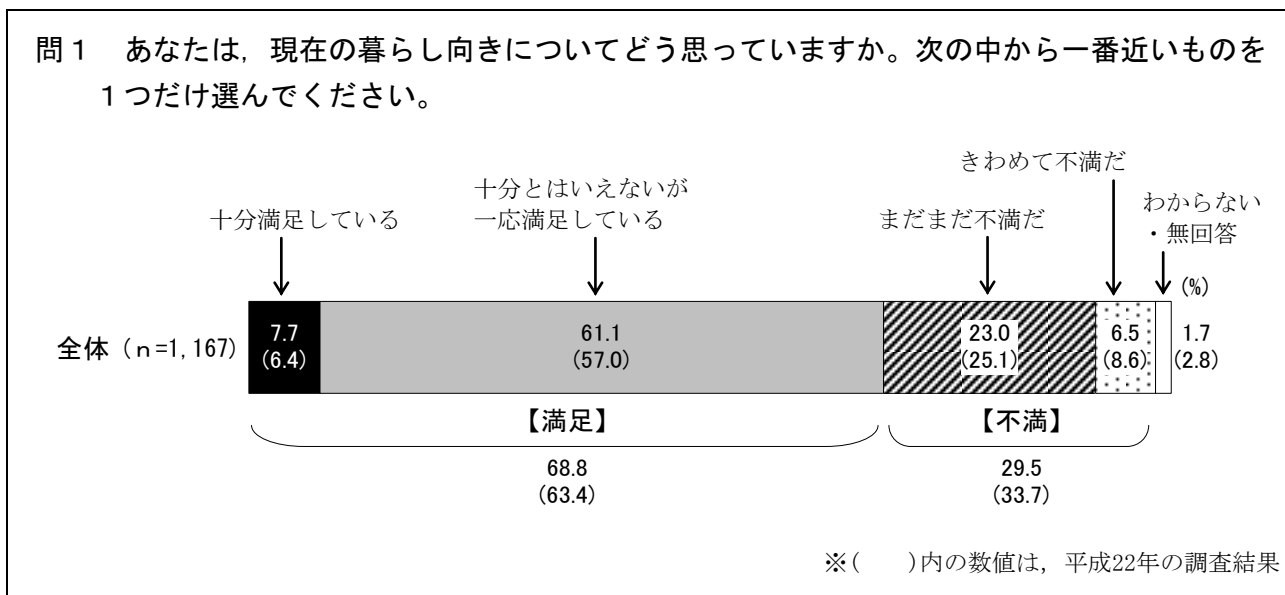


I 生活意識

1. 暮らし向きへの満足度

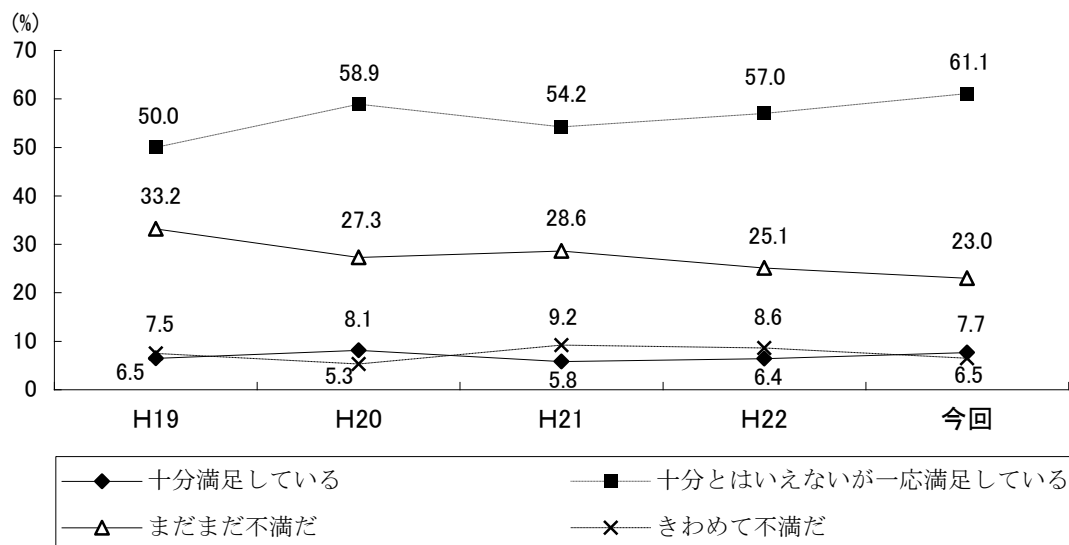
—【満足】が約7割—



現在の暮らし向きへの満足度としては、「十分満足している」(7.7%)と「十分とはいえないが一応満足している」(61.1%)を合わせた【満足】(68.8%)が約7割となっている。一方、「まだまだ不満だ」(23.0%)と「きわめて不満だ」(6.5%)を合わせた【不満】(29.5%)は約3割となっている。

前回調査と比べると、【満足】が約5ポイント増加し、【不満】が約4ポイント減少している。

図I 1-1 暮らし向きへの満足度(時系列)



—【満足】は、女性の30代と70歳以上で8割を超える—

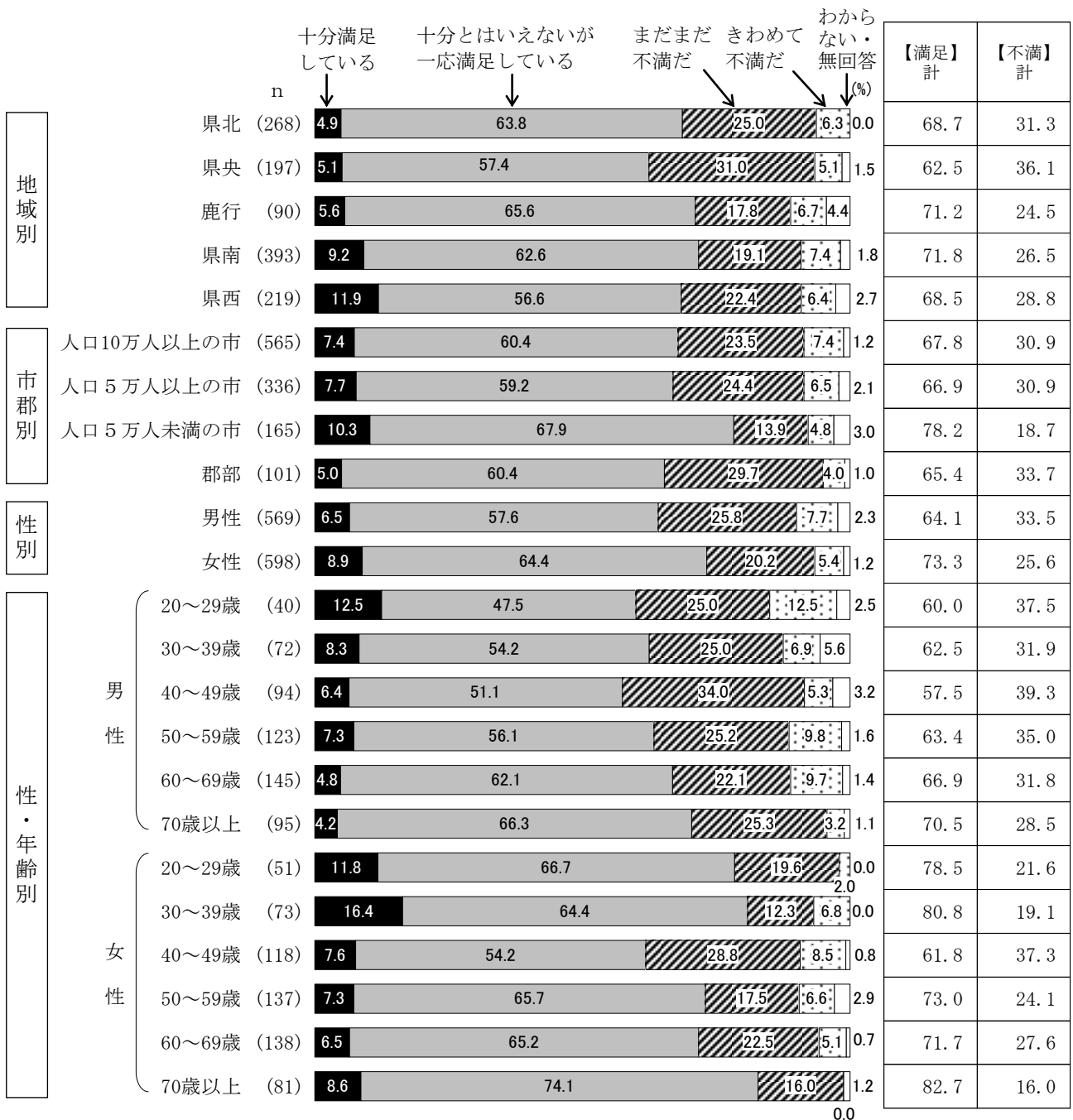
地域別でみると、【満足】は、鹿行(71.2%)、県南(71.8%)では7割を超えて高く、県北(68.7%)、県央(62.5%)、県西(68.5%)でも6割を超えている。

市郡別でみると、【満足】は、人口5万人未満の市(78.2%)で約8割と最も高く、それ以外の層でも6割台半ばを超えている。

性別でみると、【満足】は、女性(73.3%)が男性(64.1%)よりも約9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、【満足】は、男性では70歳以上(70.5%)で約7割と高くなっている。一方、女性では30代(80.8%)、70歳以上(82.7%)で8割を超えて高く、20代(78.5%)で約8割、50代(73.0%)、60代(71.7%)で7割を超えている。

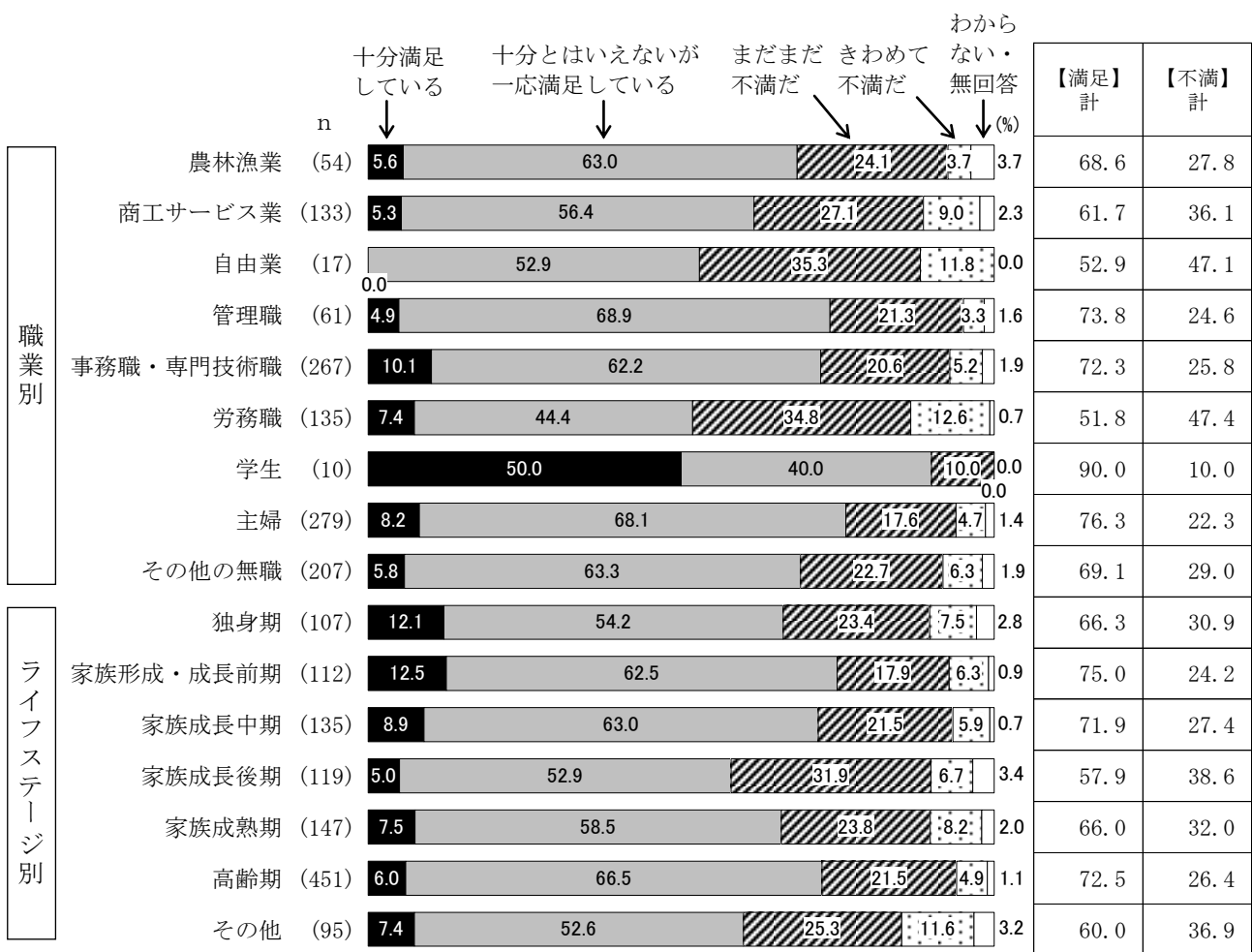
図 I 1-2 暮らし向きの満足度(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別)



職業別でみると、【満足】は、管理職（73.8%）、事務職・専門技術職（72.3%）、主婦（76.3%）で7割を超えて高くなっている。一方、【不満】は、労務職（47.4%）で約5割と最も高くなっている。

ライフステージ別でみると、【満足】は、家族形成・成長前期（75.0%）、家族成長中期（71.9%）、高齢期（72.5%）で7割を超えて高くなっている。一方、【不満】は、家族成長後期（38.6%）で約4割と高くなっている。

図 I 1-3 暮らし向きの満足度（職業別，ライフステージ別）



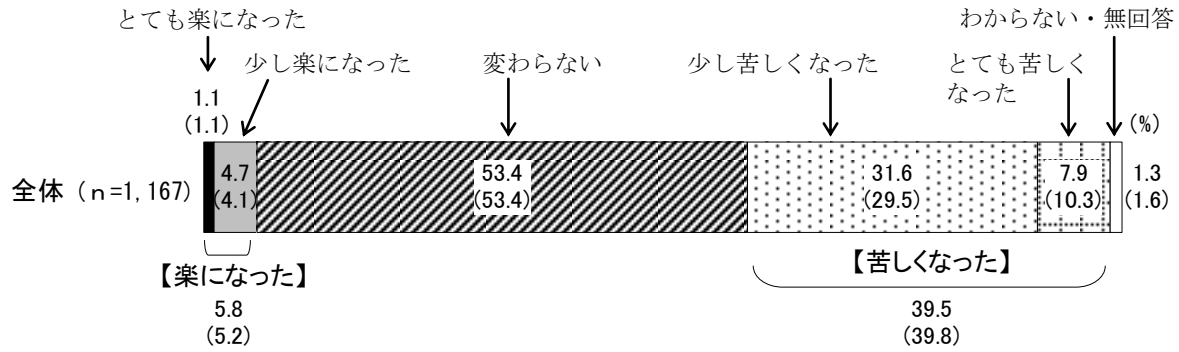
(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

2. 暮らし向きの変化

(1) 暮らし向きの変化

—「変わらない」が5割台半ば—

問2 暮らし向きは、昨年の今ごろに比べて楽になりましたか。それとも苦しくなりましたか。次の中から一番近いものを1つだけ選んでください。

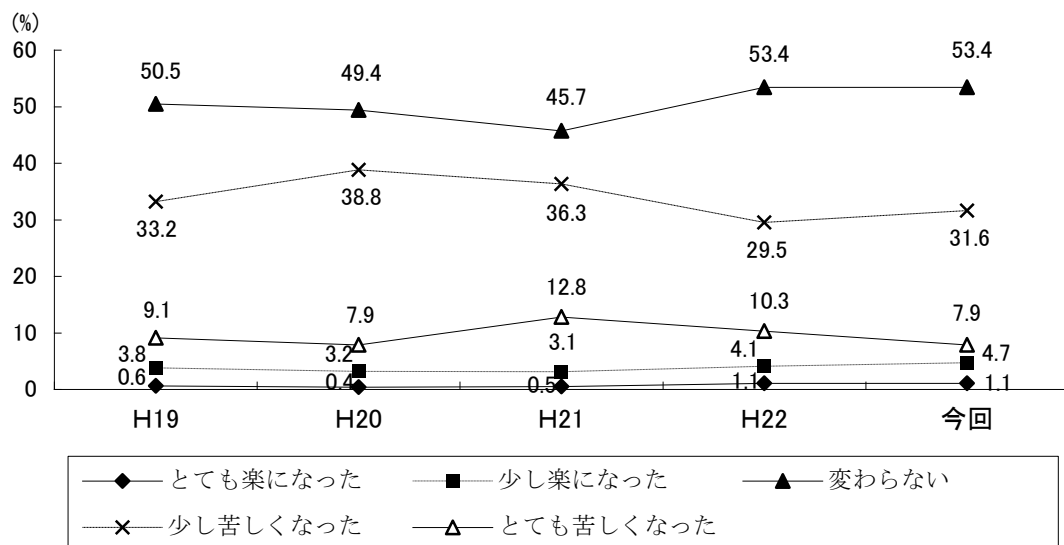


※()内の数値は、平成22年の調査結果

暮らし向きの変化としては、「変わらない」(53.4%)は5割台半ばとなっている。「少し苦しくなった」(31.6%)と「とても苦しくなった」(7.9%)を合わせた【苦しくなった】(39.5%)は約4割となっている。

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となっている。

図 I 2-1 暮らし向きの変化(時系列)



—【苦しくなった】は、男性の60代、女性の40代で5割台—

地域別でみると、「変わらない」は、県南（59.8%）で約6割と最も高く、県北（45.9%）では4割台半ばと低くなっている。一方、【苦しくなった】は、県北（45.9%）、県央（41.6%）で4割を超えている。

市郡別では、「変わらない」は、人口5万人未満の市（60.6%）で約6割と高くなっている。一方、【苦しくなった】は、人口5万人以上の市（45.2%）で4割台半ばと高くなっている。

性別では、【楽になった】は、女性（7.9%）が男性（3.7%）よりも約4ポイント高くなっている。一方、【苦しくなった】は、男性（41.5%）が女性（37.6%）よりも約4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「変わらない」は、女性の70歳以上（71.6%）で7割を超えて高く、男性の20代（60.0%）、30代（61.1%）、70歳以上（60.0%）、女性の20代（62.7%）で6割を超えている。一方、【苦しくなった】は、男性の60代（53.8%）、女性の40代（50.0%）で5割を超えて高くなっている。

職業別でみると、「変わらない」は、管理職（57.4%）、事務職・専門技術職（60.7%）で6割前後と高くなっている。一方、【苦しくなった】は、商工サービス業（49.6%）、労務職（46.6%）で4割台半ばを超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「変わらない」は、独身期（63.6%）で6割台半ばと高くなっている。【楽になった】は、独身期（9.4%）と家族成熟期（10.2%）で1割前後と高くなっている。一方、【苦しくなった】は、家族成長後期（54.7%）で5割台半ばと高くなっている。

図 I 2-2 暮らし向きの変化（地域別，市郡別）

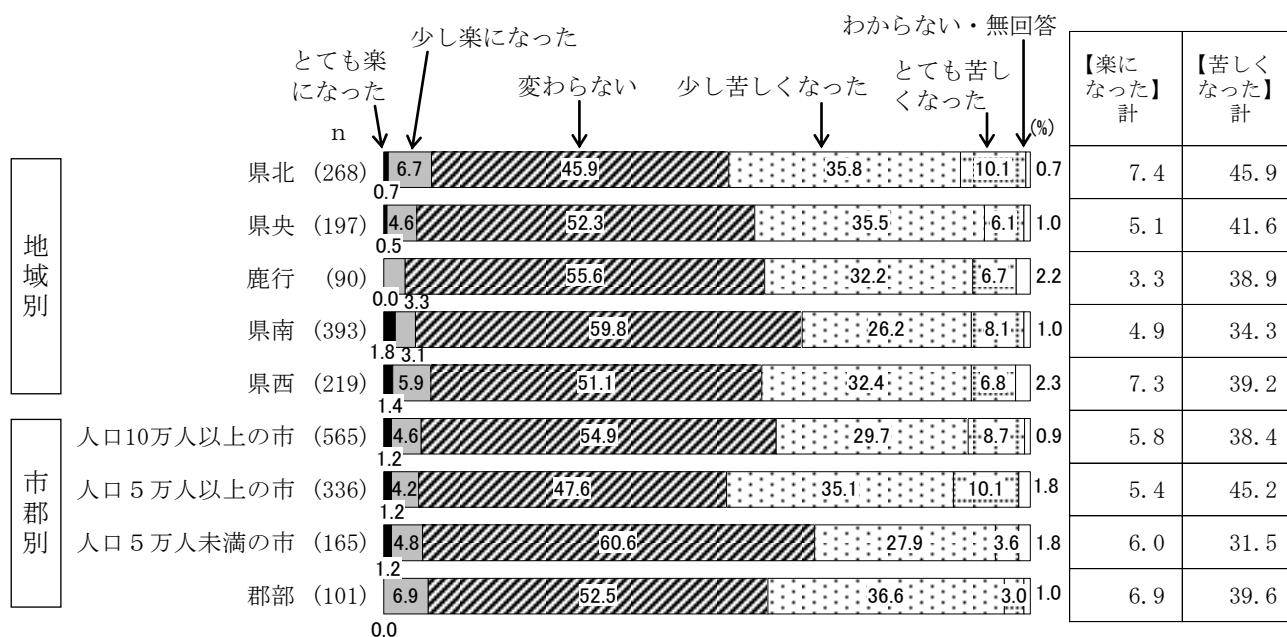
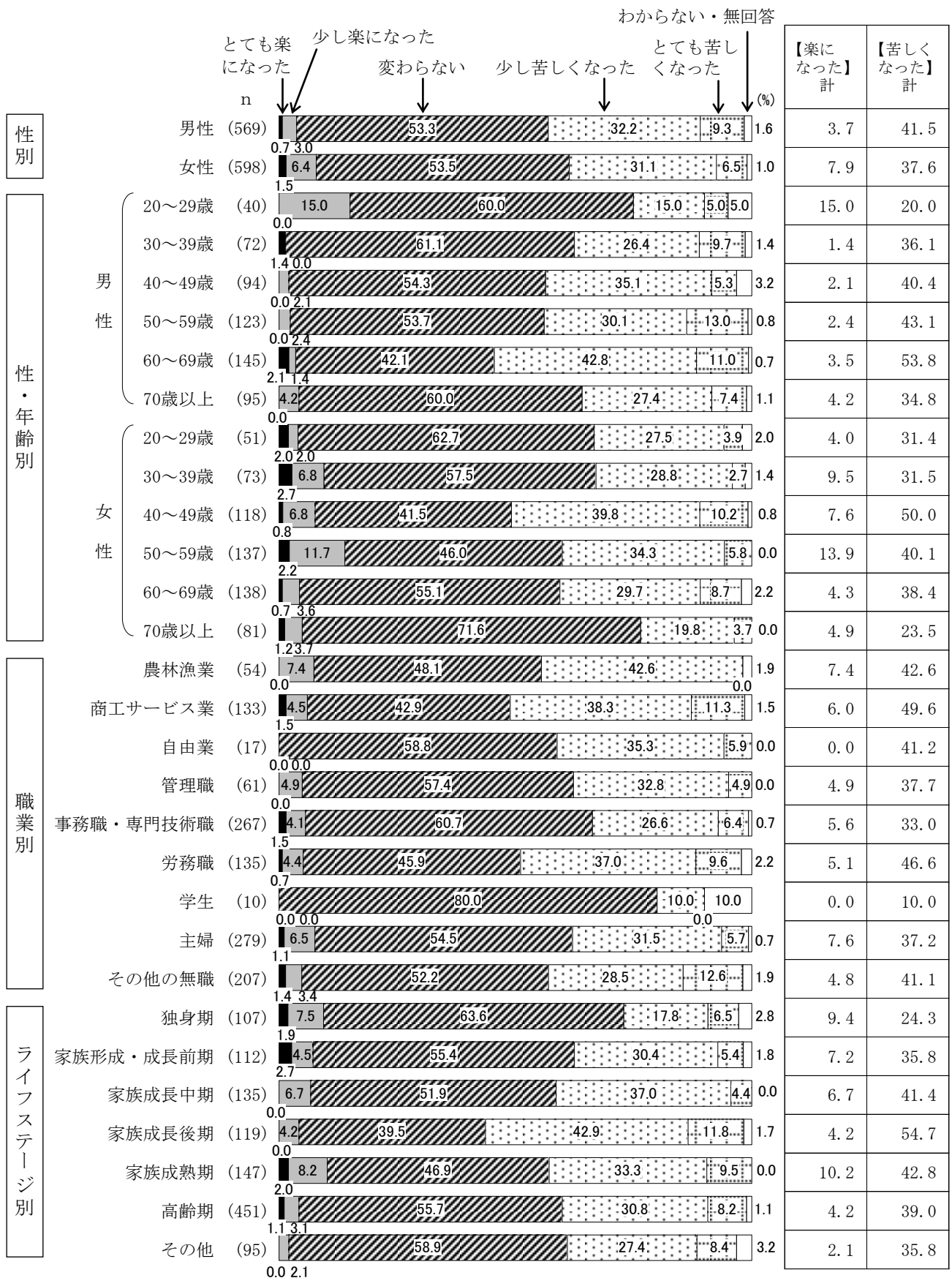


図 I 2-3 暮らし向きの変化（性別，性・年齢別，職業別，ライフステージ別）



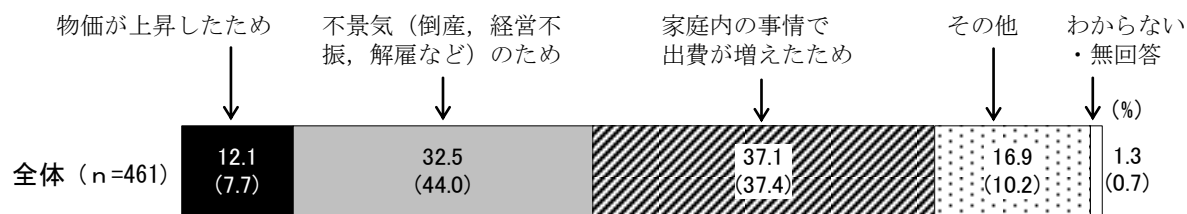
(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

(2) 苦しくなった理由

—「家庭内の事情で出費が増えたため」が約4割で最も多い—

(問2で、「少し苦しくなった」か「とても苦しくなった」と回答した方のみ)

問2-1 苦しくなったのは、主にどのようなことからですか。次の中から、最も大きな原因を1つだけ選んでください。



※()内の数値は、平成22年の調査結果

暮らし向きが【苦しくなった】と回答した方に、その理由を聞いたところ、「家庭内の事情で出費が増えたため」(37.1%)が最も高く、約4割となっている。次いで、「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」(32.5%), 「物価が上昇したため」(12.1%)と続いている。

前回調査と比べると、「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」が約12ポイント減少し、「物価が上昇したため」は約4ポイント増加している。

—男女の40代で「家庭内の事情で出費が増えたため」が5割を超える—

地域別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、県西(43.0%)で4割台半ば、県央(37.8%)や県南(39.3%)で約4割となっている。「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」は、鹿行(42.9%)で4割を超えて最も高く、県北(33.3%), 県南(34.1%)で3割台半ばとなっている。

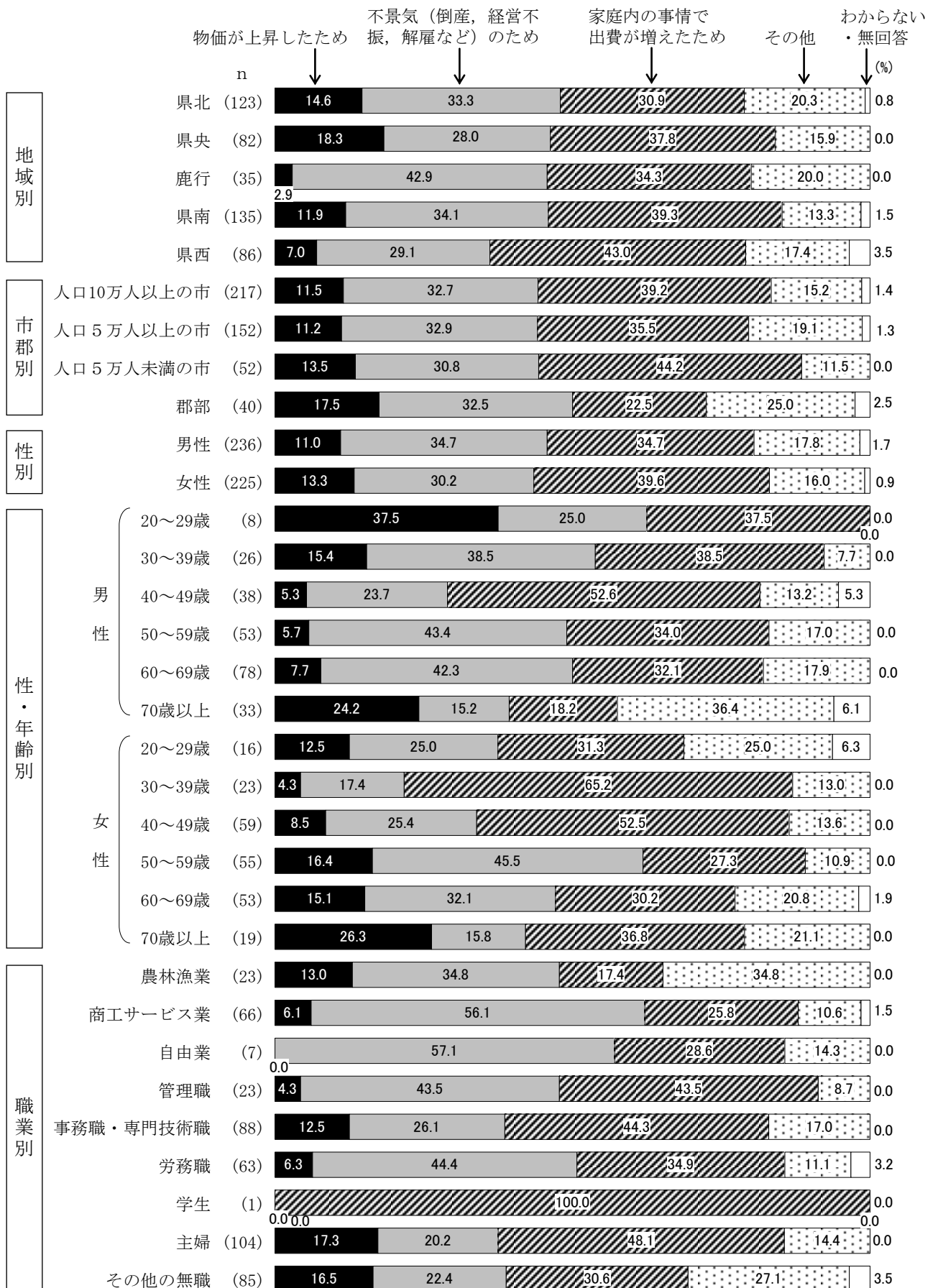
市郡別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、人口5万人未満の市(44.2%)で4割台半ばと高くなっている。「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」は、すべての層で3割を超えている。

性別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、女性(39.6%)が男性(34.7%)よりも約5ポイント高くなっている。一方、「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」は、男性(34.7%)が女性(30.2%)よりも約5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、男女の40代で5割を超えて高くなっている。「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」は、男性では、50代(43.4%), 60代(42.3%), 女性では、50代(45.5%)で4割を超えて高くなっている。

職業別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、事務職・専門技術職(44.3%), 主婦(48.1%)で4割を超えて高くなっている。「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」は、商工サービス業(56.1%), 管理職(43.5%), 労務職(44.4%)で高くなっている。

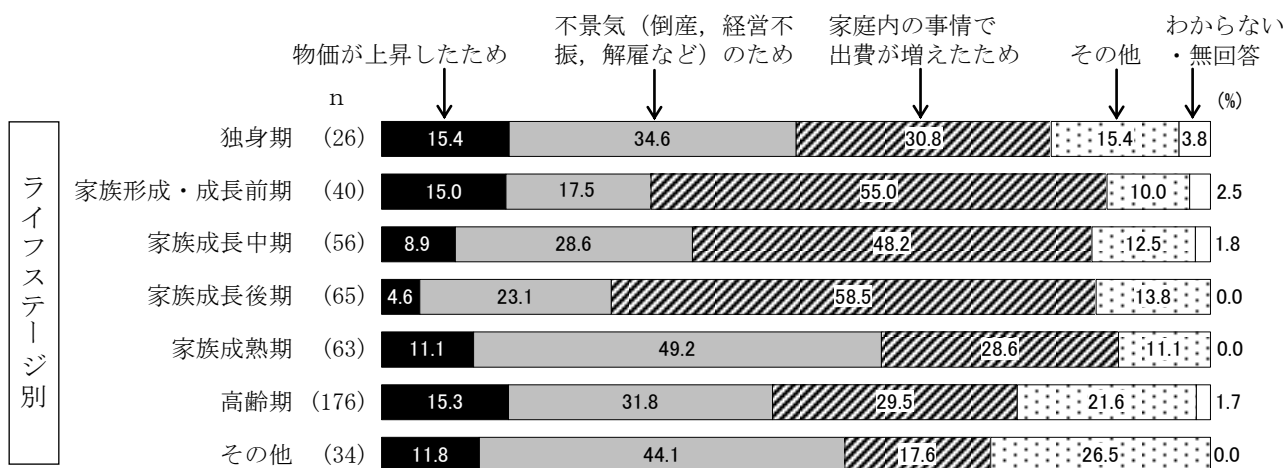
図 I 2-1-1 苦しくなった理由（地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別）



(注) 男性及び女性の20～29歳，30～39歳，女性70歳以上，農林漁業，自由業，管理職，学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

ライフステージ別で見ると、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、家族形成・成長前期(55.0%)、家族成長後期(58.5%)で5割台半ばを超えて高くなっている。「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」は、家族成熟期(49.2%)で約5割と高くなっている。

図 I 2-1-2 苦しくなった理由(ライフステージ別)



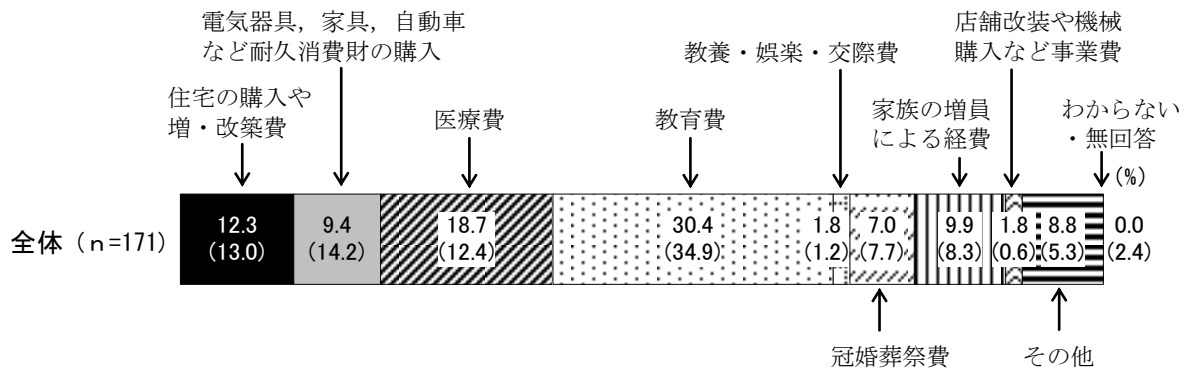
(注) 独身期は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

(3) 増えた経費

—「教育費」が約3割で最も多い—

(問2-1で、「家庭内の事情で出費が増えたため」と回答した方のみ)

問2-1-1 家庭内の事情で出費が増えたということですが、どのような経費が最も増えましたか。次の中から1つだけ選んでください。



※()内の数値は、平成22年の調査結果

暮らし向きが【苦しくなった】理由が「家庭内の事情で出費が増えたため」と回答した方に増えた経費を聞いたところ、「教育費」(30.4%)が約3割と最も高く、次いで、「医療費」(18.7%)、「住宅の購入や増・改築費」(12.3%)と続いている。

前回調査と比べると、「医療費」が約6ポイント増加している。一方、「電気器具, 家具, 自動車など耐久消費財の購入」と「教育費」が約5ポイント減少している。

